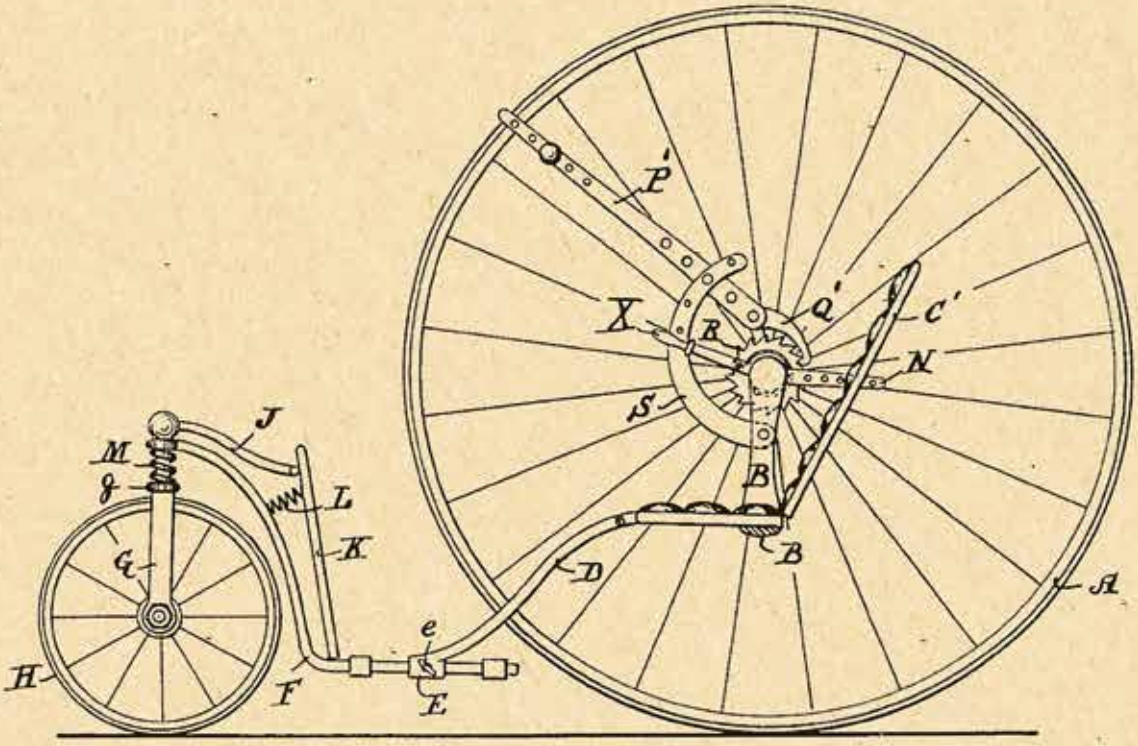
高専通信

苫小牧工業高等専門学校

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, TOMAKOMAI COLLEGE

2019年5月発行
〒059-1275　苫小牧市字錦岡443
苫小牧工業高等専門学校　総務課総務係
[URL] https://www.tomakomai-ct.ac.jp
[MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

vol. 151



VELOCIPEDE.

No. 367,025.　　Patented July 26, 1887.

新入生へ贈る言葉
各副校長ご挨拶
新留学生紹介
卒業生・修了生に贈る言葉
平成30年度進路状況

新入生へ贈る言葉

苫小牧工業高等専門学校に入学されました新入生の皆さん、入学おめでとうございます。今年度は、3年生に編入するラオス、マレーシア、モンゴルからの留学生3名を含む本科入学生202名と、専攻科生26名の合計228名の学生が入学致しました。ご家族の皆様にとりましても、お慶びは一塩のことかと拝察申し上げます。本校教職員ならびに在校生を代表しまして心からお祝いを申し上げます。

ご承知のように、本校は我が国の産業の発展と科学技術の進歩を支える優秀な技術者を養成することを目的として昭和39年4月に設置されました。この年は東海道新幹線の開業や東京オリンピックの開催など我が国にとって欧米諸国のレベルに追いつくことを目指した重要な時でした。昭和の時代は、鉄鋼業に代表される重厚長大型産業の発展から、さらには我が国が牽引した第3次産業革命、すなわちエレクトロニクス産業の発展を成し遂げた時代でした。そして、平成の時代で成熟期を迎えました。既に多くの分野で科学技術のレベルは欧米諸国を凌駕するようになってきましたが、第4次産業革命時代と言われているこれからが我が国にとっての正念場と言えます。新しい年号である「令和」の時代は皆さんが主役になります。更なる発展のために従来とは発想が異なるイノベーションが求められることでしょう。このような情勢を鑑み、本校では幅広さを持った技術者・研究者を養成するため3年前から従来の5学科制から1学科・7コース制に改組しています。本校に入学されました皆さんは、これからの5年間で専門性はもとより意識して幅広さをも持つように自己研鑽していただきたいと思います。

孔子は、「知っていることと知らないことを明確にすることが大事」と知識の重要性を説いています。一方、老子は「知識はお飾りで、一番大事なのは真理、物事の本質である」と説いています。両者は知識ということに相対した考えを持っていますが、特に科学技術の分野では、知識と真理が両輪のごとく連動していなければなりません。皆さんには、得た知識の本質は何かを常に探るような勉学姿勢を身に付ける努力をしていただきたいと思います。それが、応用力・活用力の養成、さらにはイノベーション力の養成に繋がっていきます。本校は大学と同じく高等教育機関に属しており、この高等教育機関での教育の目標は、「応用力・活用力」に富み社会に貢献する人材を育成することにあります。皆さんには「自ら進んで勉強し、単なる知識に終わらせず、応用力・活用力を身に付ける」ということを常に意識して有意義な学校生活を送っていただくことを強く願っています。学生生活は、勉学だけではありません。課外活動、教職員や学生との交友を通して人間性にも幅広さを持つよう努めていただきたいと思います。

本校では「豊かな人間性及び自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人を育てる」を教育理念としています。この理念には、他の人を思いやる広い心を持ち、難題に立ち向い解決することができ、そして社会に貢献できるひとに育ってほしいという願いが込められています。本日本校に入学されました皆さんは、日本および世界の状況を鑑み、自分が将来どのような分野で、どのような形で社会に貢献したいのかという目標をできるだけ早くもち、そのために今何をすべきかということを常に考えていただきたいと思います。

最後になりますが、皆さんの年頃には何かと悩むことも多いかと思います。何か相談したいことがありましたら、気軽に教職員に相談してください。本校には皆さんの支えになる教職員が揃っています。皆さんには苫小牧高専の学生としての自覚と誇りを持ち、充実した有意義な学生生活を通して、プロフェッショナルとしての素養と能力を磨き上げ、自信をもって苫小牧高専を巣立ってくれることを教職員一同強く願っています。

平成三十一年四月三日

苫小牧工業高等専門学校　第九代校長　**黒川一哉**

在校生からのメッセージ

機械工学科5年
千葉一生

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。いきなりですが、皆さんには将来やりたいことがありますか。私は入学当初、「ものづくり」がしたい、とりあえず「社長」になりたい、年収は「二千万円」ほしいなど色々とやりたいことや願望がありました。しかし、四年も経つと考えは変わっていきます。自分の考えの甘さに絶望し、何もやりたくない時期もありました。私が皆さんに言いたいことは、この五年間で何か一つ自分が本当にやりたいことを見つけてほしいということです。しかし、やりたいことが見つからない人もいると思います。そんな人は自分には何が出来るのかを考えてみてください。皆さんが意義のある高専生活を送れることを祈っています。

物質工学科5年
外山楓菜

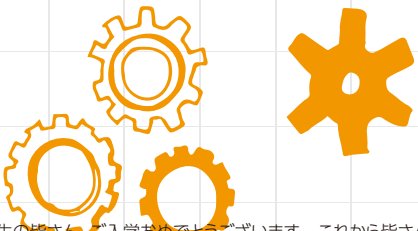
新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境に慣れてきたころでしょうか。創造工学科となった皆さんは、1年かけて様々な分野の中から自分の進む系を決めることとなります。応用化学・生物系では、化学を中心とした専門知識を学ぶと共に、実際に実験を経験し身につけることができます。化学と言っても幅広く、医療から食品まで自分たちの生活に身近な物や事について知ることができるため、きっと自分の好きな分野を見つけることができると思います。系を考えるときの参考になれば幸いです。高専は一般高校に比べ自由な校風であり、生活しているだけでも高校では経験できないことがたくさん起こると思います。そんな高専を楽しめるかどうかは皆さん次第です。ぜひ皆さんには、勉学だけでなく、部活動や学校行事に積極的に参加したりなど、友人や先輩、先生方との交流を大切にしてほしいです。皆さんの高専生活が充実した5年間となることを願っています。

電気電子工学科5年
岩佐百華

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境には慣れてきましたか?皆さんは普通高校では学ぶことのできない専門科目をこれから学んでいくことになります。電気電子系では日頃の生活に欠かせない電気のことについて座学や実験を通して学ぶことができます。電気はあらゆるところで使われていることもあり、就職できる会社や活躍できる場面が幅広くあります。ロボットやエネルギー、情報通信、実験・電気電子工作に興味がある人は系選択の際に電気電子系を選んでもらえたら幸いです。これから皆さんが過ごしていく5年間の高専生活は案外とても短いです。限られた時間の中で勉強を頑張ってみたり、部活動に全力で打ち込んでみたり、学校行事を思いっきり楽しんでみたり、仲間や先輩方、先生方と交流したりすることで、最高な思い出がたくさんできると思います。皆さんが「楽しい!」と思えるような充実した高専生活を送れるよう心から願っています。

情報工学科5年
清野良瞭

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。緊張も解け学校生活が楽しくなっている頃かと思います。高専では技術者として必要な基本的な技術を学べます。特に情報系ではパソコン一つあれば高専で学んだ技術を実践することができます。また高専で扱っている内容でなくてもインターネットで検索すればすぐに試せる技術が世の中にはたくさんありますので是非とも様々な技術に触れ、自分の好きなことを見つけてください。好きなことを極めた人材は社会において最も必要とされますし、そこにかけた時間は無駄になることはありません。また他の学科・コースにおいても技術の実践・応用は必ず自分の成長につながります。これからの学校生活が充実したものになることを心から願っています。



新入生の皆さんご入学おめでとうございます。これから皆さんは五年間、普通の高校生とは、少し違う生活を送ることになると思います。高専では、普通の高校では学べないような専門分野を多く勉強します。都市・環境系では、主に土、水、構造を学びます。また、コンクリートの破壊実験を行ったり、外に出て測量をするなど、実習内容はアクティブなものが多いです。二年生に上がる際、五つの系の中から一つを選ぶことになりますが、これからの学校生活を大きく左右するような選択になると思いますので、悔いの残らない選択をしてください。高専の五年間は長いように思えますが、実際はとても短いものです。ぼーっとしていると、あっという間に終わってしまいます。なので、勉強だけでなく、部活動や学校行事に積極的に参加し、たくさんの思い出を作り、高専生活を全力で楽しんでほしいです。皆さんの高専生活が充実したものになるように心から願っています。

環境都市工学科5年
佐藤吏矩

第1学年担任からのメッセージ

第1学年担任代表
藤島勝弘

創造工学科4期生の皆さんへ

入学してから2カ月少しが過ぎ、高専生活にかなり慣れてきた頃だと思います。遅くなりましたが、初めに第1学年担任を紹介します。（　）内は1年生の担当科目です。1組担任・坂下俊彦（地理、1～5組）、2組担任・藤島勝弘（数学IA、1～3組）、3組担任・東俊文（英語IA、1～3組）、4組担任・佐藤奈々恵（英語IA、4～5組）、5組担任・金野幸吉（数学IA、5組）です。担任と教科担当で協力して、新入生を全力でサポートいたします。

ここからは、第1学年担任を代表して皆さんに高専生活のアドバイスを送ります。

学習面については、ズバリ「継続は力なり」の一言です。よく聞く言葉ですが、それしかありません。高専の勉強は内容量が多く、どの科目も進度が中学校よりも格段に速くなっています。毎日の勉強で確実に差がつきます。中学時代では塾に通っていて、すべてを塾に任せて自分から進んで学習する習慣がついていないことがあります。日頃の学習習慣がついていないと試験勉強しかしないということになり、試験前の一夜漬けになってしまいます。それでは基本を理解するよりも答えの暗記で精一杯になってしまいます。当然、試験が終われば全てを忘れてしまい、授業についていけなくなります。学生寮では毎日2時間の自習時間があるので机に向かうことができますが、その時間を有効に使えていないこともあります。内容の濃い時間にしなければなりません。自宅通学生は通学時間の関係で家庭学習時間が十分にとれないことがあります。このような場合は通学時間を有効利用したり、土・日の学習時間を長めにとるなどの工夫が必要です。1年生での学習習慣が身につくと高学年になっても継続されます。是非とも毎日の継続した学習を心掛けてください。また、課題・レポートが中学校の時よりも多く出されます。提出期限を守って必ず提出してください。毎年、課題未提出者のほとんどが成績不振となっています。課題を通じて理解を深めることにもなりますのでここは絶対に手を抜かないでください。

生活面については、自己管理力の向上です。最近はインターネットが広く普及し、スマートフォンやパソコンで多くの情報を得られるという便利な時代になりました。一方で、ゲームやSNSなどに夢中になって睡眠不足や集中力低下といった健康被害、更には誹謗中傷の書き込みなどの犯罪行為に及ぶこともあります。すべては使う側の自己管理力の問題です。使う場所、時間、目的を制御しなければなりません。自分だけで制御できないようであれば、保護者の指導の下で使うようにしてください。

さて、第1学年オリエンテーションが4月18日㈭、19日㈮の2日間にわたって行われました。入学してすぐの行事だったのでまだ緊張感が残っていましたが、ホテル内のいろいろなイベントでクラスメートと打ち解けることができたと思います。これからも、いろいろな行事を通してクラス内の親睦を深めて楽しい学校生活を送って欲しいと思います。

次に、今後の主な行事をまとめます。7月6日㈯・7日㈰は道内高専体育大会（競技によっては日程が異なる）が行われます。道内の4高専（苫小牧、函館、旭川、釧路）の体育系部活動の大会で、その優勝チームが全国大会に進むことができます。各部活動にとって、最も力をいれている大会です。1年生にとっては試合に出る機会はないかもしれませんが、上級生の意気込みを感じてほしいと思います。また、苫小牧ではバレーボール、柔道、アーチェリーの競技が行われるので応援もよろしくお願いします。8月2日㈮～8日㈭は前期定期試験です。期末試験なので前期評価に大きく影響します。先ほども書いたように試験直前だけの勉強にならないように準備してください。10月19日㈯・20日㈰は高専祭です。大学の学校祭のように屋台が並んで華やかなところと学科展と呼ばれる各専門分野の展示や文化系クラブの展示などがあり、高専らしさを感じるイベントです。1年生は屋台を出すことはできませんが、クラス対抗の制作などに精一杯取り組んでください。また、設営や運営に関わる仕事がありますので、それぞれで頑張ってください。1月21日㈫の冬季体育大会は、1年生のクラスにとっては最後の学級対抗行事です。良い思い出を作ってください。2月7日㈮～14日㈮の後期定期試験は学年最後の試験となり、この結果次第で楽しい春休みになるかどうかが決まります。このように楽しいイベント、苦しい試験など様々なことがありますが、すべてが良い思い出になることを祈っています。

以上、新入生皆さんの活躍を心から期待しています。

各副校長ごあいさつ

ご挨拶

本年度も総務主事を務めます古崎毅（応用化学・生物系）です。総務主事補の稲川清教授（情報科学・工学系）、有馬隆司准教授（総合自然科学系）と共に、全教職員の協力も得てグローバルエンジニア育成（ニュージーランドEIT・香港Thei・タイカセサート大学への学生の派遣等）の推進および学校行事等の情報発信をして参ります。また、学校の種々のシステムの点検評価、防災対策や施設設備改善の計画立案など、学生・教職員が安心して勉強・仕事に励むことができる環境整備にも努めて参ります。

本校は創造工学科に改組して4年目を迎えました。4年生は各コースに配属されてより専門的かつ高度な専門科目やプレ研究など新たな教育プログラムに基づいたエンジニア育成教育が始まりました。保護者・同窓生・地域の皆様におかれましては、今後とも学校の改革・学生の教育にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

副校長（総務主事）
古崎　毅

ご挨拶

今、社会は5年先も予想できないスピードで大きく変化しています。教育を取り巻く環境も同様です。これまでは、教えられたことを覚え、それをテストで書けば単位がもらえたかもしれません。しかし、暗記して知識を蓄えることはもはや重要ではなくなりました。これからは、調べ、考え、創造し、提案する力が重要となります。学生の皆さんはそういう能力を身に着けなければなりません。そのために、受け身の勉強から脱却してください。自分が知りたいと思うことはとことん探求し、また、友人や先生とディスカッションするのもよいでしょう。能動的な学びは楽しく、学校がワクワクする空間になると思います。

さて、今年度から教務主事を拝命しました。教務主事補の大橋准教授（情報科学・工学系）、浅見准教授（機械系）、高橋准教授（総合自然科学系）のサポートを得ながら、本校の教育環境の充実・改善に努めて参ります。今後とも本校の教育にご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

副校長（教務主事）
村本　充

いつでもお声がけ下さい

今年度も引き続き副校長（学生主事）を担当することとなりました創造工学科の中島です。赤塚、小薮、佐々木（幸）の三主事補とともに、学生生活全般の指導・助言・支援を行ってまいります。

学校は勉学の場であると同時に、青春時代の多くの時間を仲間とともに過ごす生活の場でもあります。日々の生活の中で心が揺れ動くこともあるかと思いますが、そういった経験も含めて学生諸君の学校生活が、健全かつ心豊かに光り輝く日々となるよう、教職員一同全力で支援してまいります。

今年度も「すべては学生のために」の精神のもと、保護者をはじめ関係各位のご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

副校長（学生主事）
中島広基

新年度の寮生指導

今年度から寮務主事を拝命しました。寮務主事補として宇津野先生（応用化学・生物系）多賀先生（総合自然科学系）に生活指導を、中村先生（都市環境系）佐々木先生（総合人文科学系）に寮生会指導をお願いしております。4月2日、新入寮生72名（一年生男子58名、一年生女子11名、男子留学生3名）を迎え、今年度の学生寮は男子寮286名、女子寮53名、計339名の寮生でスタートしました。

学生寮は学校の施設であり、生活の安全を確保すること、そして寮生の就学を支援することを本旨とします。そのために各種の規則が設けられ、違反者には相応の罰を科することになります。寮生ならびに保護者各位には、このことを十分理解願います。

同時に学生寮は集団生活の場であり、同年配の仲間とともに楽しく過ごすことが重要です。4月4日の新入寮生歓迎会を皮切りに、各種寮生会行事が行なわれます。寮生の積極的な参加を期待します。

寮生の生活を安定させるためには、従来からの慣行を大切に守ることが必要です。反面、教育機関の教職員にも働き方の変革が求められる時代の中で、指導の質を落とさずに指導のあり方を変える方策も考えなくてはなりません。保護者各位の御理解を得つつ、変えられることは変えてゆく所存です。どうかみなさまの御支援を賜りますようお願い申し上げます。

副校長（寮務主事）
山際明利

みなさまよろしくお願いいたします

4月から副校長（研究主事・専攻科長）を拝命した二橋といいます。まず本科ならびに専攻科に入学された学生の保護者の皆様、おめでとうございます。特に本科の新入学生の保護者の皆様は、お子様の入学が決定するまで多分のご苦労があったことと拝察いたします。私自身も新年度から高等学校に進学する子供を持ち、これまで以上に保護者の皆様の気持ちが理解できた気がします。さて、私は副校長として主に本校の専攻科と研究面を担当させていただきます。本科の学生の保護者の皆様には馴染みが薄いかもしれませんが、本校には本科の5年間の課程を卒業後更に2年間学び、大学卒業と同等の学士の資格が得られる専攻科という課程があります。学生たちはより専門を深め、高度な研究を行っていきます。卒業後は、就職だけでなく各大学院に進学する学生も大勢おります。専攻科はもちろんのこと本科においても、高専が他の高等学校と決定的に異なるのは、教員が教育だけでなく研究も行っている点にあります。保護者の皆様には目に付きづらいですが、これこそが高専を高専たらしめている重要な点です。さらに近年は、外部から研究の為の資金を獲得することも、教員にとっては重要な仕事になってきております。これらは教員の質の保証の上でも重要な要素になっています。私はこれらの点を、皆様からは目立ちませんが、縁の下から支えていく所存であります。

副校長（研究主事・専攻科長）
二橋創平

新／留／学／生／紹／介

3年2組　ラオルー チュソン

2018年4月2日は日本に着いた日です。一年間日本に住んでいたが、日本の文化とか日本の生活に慣れていないです。苫小牧高専に着いた日は2019年3月25日です。北海道は寒いところですが、僕は寒いところが好きですから、大丈夫です。苫小牧高専に着いてから、色々なことがわからなかったが、先生とか先輩とかクラスメイトとか色々なことを優しく教えてもらって嬉しかった。

どうして日本に留学しているかというと、日本の教育の質が高いので、日本で進学してラオスに戻ってから、いい仕事が取れるかなと思っている事とか 将来、自分の会社を造りたいと思っているので、日本で勉強したら、自分の夢がかなうと思うからです。それで、これから色々なことを教えて欲しいです。よろしくお願いします。

3年3組　ムハッマド ミラシャ ビン スルタン アラウディン

私はマレーシアから来た留学生、シャです。私は今年20歳です。私の趣味はサッカーとフットサルをすることです。

高専を選ぶことはできませんでしたが、苫小牧市で勉強することになったときはとても嬉しかったです。

それは、私を大事にしていつも私を助けてくれる多くの先輩がいるからです。それ以外にも、苫小牧高専についてたくさんのおもしろいことを聞いたことがあります。一例として、苫小牧高専のサッカーチームは、他の高専の中でもトップのチームの1つです。

私は小さい頃からドラえもんを見て、日本に恋をしました。そのため、マレーシアで勉強して日本に来る機会を得ました。私は日本の美しさと清潔さにとても魅了されました。日本人の優しさにも驚きました。苫小牧高専に到着したとき、日本語があまり得意ではないので、日本の学生に会うとき緊張していましたが、幸運にも、私のチューターはとても偉大な人です。彼はとても親切でいつも陽気です。清水先生と小川さんにも感謝します。

私はこの高専で、特に化学について多くのことを学びたいと思います。また、私は日本の文化を学び、それを私の日常生活に適用したいと思います。 それ以外にも、私は日本で様々な方言を学びたいです。私の先生や友人がこの高専で勉強するのを手伝ってくれることを願っています。私もここでたくさんの友人を作ることを願っています。この高専での3年を楽しみにしています。よろしくお願いします!

3年5組　ガンズルフ ビルグーン

私はモンゴルから来た留学生のビルグーンです。日本へ行きたいなと思い始めたのは、ナルトというアニメを見ていたころのことです。アニメが好きになったことがきっかけになって日本に留学することを目指して勉強を始めました。留学する前は、日本へ行くことが夢みたいなものでした。今、その夢が叶ってとても嬉しいです。

苫小牧市に来る前は、寒いところだという予想しかなかったです。今は、ここが何も心配なく、勉強に集中できるいい環境だと思っています。なぜなら、高専の人たちが優しくて、私を歓迎してくれました。先生たちに補講を始め、色々お世話になりました。クラスの皆さんも声をかけてくれたり、色々助けてくれています。生活上にも、先輩たちが助言を行ったり、分からないことがあったら教えてくれたりしています。それで、私一人じゃなくて、困ったことがあったら助けてくれる人がいっぱいいるなと安心しました。

私は将来、人々がより便利に生活できるためのアプリ、プログラムの開発をしていくつもりです。そのために、苫小牧高専でアプリ、プログラムの作り方を学んで、実際の研究を経験したいです。だから、今から頑張って行こうと思います。よろしくお願いします。

学生会の紹介

学生会として、4月は対面式に関わる活動を行い、無事新一年生199名を迎えることができました。今後も新入生に優しい学校づくりを目指していきます。

苫小牧高専は学生会執行部と8つの委員会・局が協力して、学校行事の企画・運営を行っています。

学生会執行部は高専祭や体育大会、学生総会に関する活動を行っています。

また、今年度も正面玄関前に目安箱を設置しています。学校生活を送るうえで改善してほしいことがあれば、ぜひご活用ください。学生の皆さんからいただいた意見は、校長懇談会を通じて校長先生に伝えたいと考えています。

学生会長　環境都市工学科5年　**吉村　介**

よろしくお願いします！

学生課からのお知らせ

本校の学生課は、担当する業務によって4つの係に分かれています。学生生活に直接関係のある各係の主な業務は次のようになっていますので、問い合わせや連絡は各係の直通電話をご利用ください。

なお、学生課には、保護者の皆様などから、電話での問い合わせや連絡などが多数寄せられます。こうした電話に対して、「担当係（担当者）に代わります。」などと、電話を回すことで、ご不便をおかけすることもありますが、担当係（担当者）ごとに専門の業務を分担しておりますことをご理解願います。また、学生の呼び出しや伝言等の取り次ぎについては、緊急を要するもの以外は行っておりませんので、ご承知おきください。

教務係

［直通電話］0144-67-8001

- 授業、試験に関すること
- 休学、復学、退学及び進級、卒業に関すること
- 在学証明書、成績証明書、卒業証明書などの学生の諸証明に関すること
- 学生証の申請に関すること
- 担任に連絡がつかなかった場合の欠席等の連絡

学生係

［直通電話］0144-67-8032

- 奨学金（日本学生支援機構等）に関すること
- 入学料、授業料の免除に関すること
- 学生の保健管理（カウンセリングの申込等）に関すること
- 学生の課外活動、行事等に関すること
- 学生旅客運賃割引証及び通学証明に関すること

寮務係

［直通電話］0144-67-8002

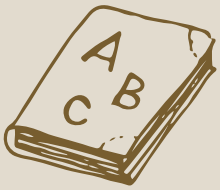
学生寮教員当直室（夜間緊急用17:00~8:30）0144-67-8024

- 学生の入寮及び退寮に関すること
- 寮費の徴収など諸経費に関すること
- 緊急の場合の外泊の連絡

図書係

［直通電話］0144-67-8907

- 図書の閲覧、貸出しに関すること
- 学術文献の収集及び提供に関すること
- その他学術情報センターに関すること



高専通信　行事予定（2019年度）

前　期		後　期	
4/ 1(月) ～4/ 2(火)	春季休業	9/30(月)	後期授業開始
4/ 2(火)	新入寮生入寮日	10/10(木) ～ 10/11(金)	第3学年道内工場見学旅行
4/ 3(水)	入学式・2～5年生入寮日	10/19(土) ～ 10/20(日)	高専祭
4/ 4(木)	始業式・対面式、第1学年ガイダンス、新入寮生歓迎会、健康診断	11/ 1(金)	保護者懇談会
4/ 5(金)	前期授業開始	11/ 5(火) ～11/ 8(金)	第4学年総合研修旅行
4/10(水)	歯科検診	11/25(月) ～11/29(金)	特別時間割
4/16(火)	第2学年オリエンテーション	12/25(水)	閉寮日
4/18(木) ～4/19(金)	第1学年オリエンテーション	12/25(水) ～ 1/ 6(月)	冬季休業
4/20(土)	開校記念日	1/ 6(月)	開寮日
4/25(木)	内科検診	1/ 21(火)	冬季体育大会
5/14(火)	授業参観	2/ 7(金) ～2/ 14(金)	後期定期試験
6/ 3(月) ～6/ 7(金)	特別時間割	2/ 21(金)	閉寮日
6/14(金) ～6/15(土)	寮祭	2/ 27(木) ～ 3/31(火)	学年末休業
6/18(火)	春季体育大会	3/ 19(木)	卒業式・修了式
7/ 6(土) ～7/ 7(日)	道内高専体育大会（※一部の競技を除く）		
8/ 2(金) 8/ 8(木)	前期定期試験		
8/10(土)	閉寮日		
8/13(火) ～9/24(火)	夏季休業		
9/29(日)	開寮日		

卒業生へ贈る言葉

本科卒業生並びに専攻科修了生の皆さん、ご卒業、ご修了、誠におめでとうございます。また、本日までご子息・ご息女を暖かく育ててこられました保護者の皆様におかれましても、お慶びはひとしおのことと拝察申し上げます。

さて、本日は本校にとりまして五十一回目の卒業式並びに十五回目の修了式になります。皆さんは、これまでに卒業・修了された先輩たちが各分野で営々と築き上げてきた社会貢献の伝統を引き継ぎ、さらに発展させていくことになります。苫小牧高専での教育および経験を糧として、地に足をつけ、しっかりと着実に自分の道を切り開いてくださいい。これからは、すべての責任は皆さん自身が負うことになります。このことを先ずはしっかりと自覚していただきたいと思います。

特に、皆さんがこれから歩んでいく社会は第四次産業革命と言われている時代に入っていきます。この情報化時代への変革は、明治維新における社会構造、社会体制の変革にも匹敵するとも言われています。皆さんのこれからの未来はイノベーションの連続で、大変なことが多いかと思いますが、技術者にとって非常にやりがいのある社会ともいえます。また昨年は、北海道で大きな地震が発生しました。このほかにも近年は日本全国で大規模な自然災害が発生しています。復興に向けて、エンジニアへの期待は非常に大きなものがあります。苫小牧高専での座学、実験、実習で培った基礎力を遺憾なく発揮し、安心・安全な未来社会の構築へ向けて社会貢献していただくことが保護者の方々、教職員一同の強い願いです。

老子が著したと言われている「老子道徳経」の中には皆さんが生きていく上で参考になる多くの言葉が記されています。老子は人を含め万物の根源は「道」であるとし、楽しいこと、辛いこと、苦しいこと、驚くことなどすべてを受け入れながら歩み人生を終える、すなわち故郷に帰ると説いています。その人生の中で大事にすべきことのひとつに、「相対評価することで思考が不自由になり、物事の本質を見失う」という意味のことが書かれています。皆さんは、これから社会に船出するわけですが、周囲との比較で成り立つ相対評価にとらわれず、自分自身の個性・天性を絶対評価し、「自分は何をしたいのか」、「自分は何をすべきなのか」ということを常に考えるような生き方を心がけていただくことを望みます。そのことが本校の教育理念である「自主自律」に繋がっていきます。

最後になりますが、皆さんには、これからの人生、失敗を恐れず、苫小牧高専の卒業生としての高い志を持って、地域、日本、世界のために貢献する気概と心の余裕を持って充実した人生を送ってくれることを保護者の方々とともに教職員一同心から願っています。

平成三十一年三月十五日

苫小牧工業高等専門学校

第九代校長　黒川一哉

卒業生・修了生からの言葉

五年間を振り返って

機械工学科5年　平元佳菜

今思えば五年間経つのはとてもはやいと感じます。最初の三年間は、文武両道を目標に普通の高校生のように学校生活を送っていました。低学年の頃は、7時間授業が普通であり、教科数がとても多かったです。部活との両立に苦しんだときもありましたが、私の場合は〝部活のトレーニングより辛くない〟と思いながら乗り越えていました。部活動も思った以上に辛く、やめたいと思うときは何回もありました。しかし、部活動をしていたからこそ出会えた素敵な先輩、可愛い後輩は私の宝物になりました。

高学年からは授業数も減ったため時間にも、心にも余裕ができたのが一番嬉しかったです。それは低学年のうちに漢字検定や工検定などの資格をとっていたため、単位認定が出来たからです。皆さんには、勉強が難しくならないうちに色々な資格をとっておくことを勧めます。5年生になったら、集大成として卒業研究が残っていますから。

正直なところ五年間は楽しい事以上に辛い事がたくさんありました。しかし、自分が成長するためにあったと思えば悔いはありません。皆さんも笑顔で卒業できるように何事にも真剣に取り組んでいってほしいです。頑張ってください。応援しています。そして、五年間を通して出会えた先生方、寮母さん、友達、先輩・後輩の皆さん、今までありがとうございました。

5年間を振り返って

電気電子工学科5年　赤井陽輝

入学した日に、この学校に5年間通い続けるのはとても長いなと思っていました。しかし、5年間の高専生活は気づけばあっという間に終わっていました。学年が上がっていくとインターンシップや道外研修旅行などの行事があったり、専門分野の勉強が難しくなったり、レポートに追われたりと忙しい日が増えていきます。資格の取得などを目指している人も多いと思いますが、準備は早めに！部活動も勉強と同じです。私は剣道部に所属していましたが部活に集中できる時間は徐々に減っていきます。在校生の皆さんには、今ある時間を大切にし、「勉強」、「部活動」、「遊び」を全力でやりきってほしいと思います。そうすれば、5年間の高専生活はあっという間かもしれませんが充実したものになるはずです。

最後に、5年間共に過ごした友人たち、剣道部の後輩・先輩方、授業や実験などで指導していただいた先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

5年間の高専生活

情報工学科5年　舘山颯斗

苫小牧高専で過ごした5年間は、信じられないくらいにあっという間でした。2年生になって、初めてレポートを執筆した際は、あと4年もこんなことをしなければならないのかと思い、絶望したことを今でも覚えています。実際に、高専生活で一番つらかったことは間違いなくレポートで、生活リズムを幾度となく乱されました。それでも、部活をしたり、友達と遊んだり、習ったばかりの専門用語を使った会話をしたり。そんな高専生活はとても楽しくて、充実したものであったと思います。

私の高専生活は多くの人に支えられていたからこそ、成り立っていました。教鞭を執ってくださった先生方、部活で指導して下さった先生方、ともに苦楽を乗り越えた友達、私の高専生活にかかわってくださったすべての方々の支えがあったからこそ、無事卒業することができました。5年間本当にありがとうございました。在校生の皆さんも、高専生活には大きな壁が立ちはだかっていると思いますが、友達と協力して乗り越えてください。

『出会い』の5年間

物質工学科5年　岩城航太

私にとって苫小牧高専での5年間は、出会いに恵まれた5年間でした。私はあまり多くの人と積極的に交流する性格ではないのですが、高専でできた私の一番の友人は、気風のいい人柄であると同時に、とても社交的で学科・学年問わず知り合いがおり、先生方とも仲が良い人でした。そのため、彼自身とも良い友人同士でいながら、彼と一緒に行動してくうちにその知人とも交流があり、気付くと何人かとは個人的な付き合いをするようにまでなっていました。そうして出来た友人には自分から積極的に付き合っていた友人達とはまた違ったタイプの人もおり、とても有意義な経験を多く得られました。4、5年生での担任の先生との出会いも私にとっては恵まれたもので、就職希望でいながらやりたいことの中々決まらない私に、限られた時間の中でじっくりと、かつ親身に付き合って下さいました。出会いというのは、自分と周りを劇的に変化させてくれるものだと思います。在校生の皆さんにも、この高専で良い出会いがあることを願っています。

贈る言葉

環境都市工学科5年　内山菜々子

受験前の初詣に家族で行って引いたおみくじが大吉で、大喜びのあまり叫び、周囲に驚かれてしまいました。それくらい嬉しかったんだなと思い返して笑ってしまいます。それから長いと思っていた五年間は、過ぎてみると本当にあっという間でした。

五年生では卒業研究が始まり、クラスメイトと会う時間が少なくなりみんな研究室にいる時間が多くなりました。一年間頑張ったと思える研究をすることができたことを誇りに思っています。高専生活を振り返れば、様々な経験をさせていただき、多くの方にお世話になって来ました。学生会として学校祭や体育大会などの行事の運営にたずさわらせて頂けたのもとても楽しかったです。イベントを成功させて無事にいいものをみんなで作り上げる事ができたことは大切な思い出です。

五年間大変だと思う事は多くありましたが、今となっては頑張って乗り越えて来て良かったと心から思っています。ご指導してくださった先生方、私を支えてくれた皆さん、ありがとうございました。

高専生活を振り返って

電子・生産システム工学専攻　星野啓太

本科での5年間は、部活や高専祭、テスト等色々ありましたが、気が付いたら卒業そんな感覚でした。なので専攻科での2年間は、自分自身ができない、向いていないことに対して向き合うように決意して取り組みました。私は発表がとても苦手でした。そのために研究室の池田先生に学会で発表する機会を用意していただき、結果として学会で二つの賞をいただくことができました。私は英会話や知らない所に行くのは嫌いでしたが、海外で現地学生とグループを組んで問題解決に取り組むというプログラムがあることを知り、参加しました。私はそこで異文化に触れ、分かり合うことの楽しさやコミュニケーションツールとして英語が重要なことを実感しました。専攻科に入ってからの2年間は、本科のときとは違う充実感がありました。また、やりたいと思ったことを助けていただいた学校や先生方、同級生にとても感謝をしています。どうもありがとうございました。

学生時代編 ～完～

環境システム工学専攻　大塚彩音

人を一冊の本に例えたとき、学生時代とは物語で言えば導入部分に過ぎない。それと同時に、その後の物語の行く先を決める非常に重要な章であると言えるのではないだろうか？我々はもう真っ白なノートのページ目ではない。そこには、汗と血と涙と努力で殴り書かれた学びの記録が誇らしげに連なっている。高専に入学した7年前の春、漠然とした期待感と未知の世界への僅かな不安を胸に、真新しい教科書に折り目をつけたことを覚えている。一筋縄ではいかない課題、慣れぬ実験器具を使っての実習。挫折も、苦難も数えられないほどあった。しかしそれでも諦めず、友人や指導員、両親、数え切れないほど沢山の人に支えられ励まされ、何とか今日まで来ることが出来た。

この春、人生の新たなる章へと頁を進める。書き間違えも、ペン先が引っかかることもあるだろう。それでもいつか私と言う本を読み返した時、笑みが溢れるような内容にしたいと思う。

CONGRATULATIONS

旅立つ娘へ

情報工学科卒業生 五十嵐和泉
《父》五十嵐重信

「どこの高校を受ければいいの？」
「・・・。」

高校受験の段階で春からの私の勤務地が決まっていなかったので、あなたには少しつらい思いをさせました。そして、かすかに思い描く自分の将来像と女子寮が完備しているということで苫小牧高専への進学を決めました。5年間、きっと楽しかったことばかりではなかったと思いますが、様々な体験を通して大きく成長したあなたの姿が嬉しいです。

春からは社会人です。産業のグローバル化、労働力人口の減少、人工知能の発達等で予想もできない未来が待っています。どんな状況でも苫小牧高専で身に付けた知識と技能と人間性にさらに磨きをかけながら、しなやかに強く生き抜いてください。高専を選んだことが正しかったかどうかはあなたのこれからの生き方にかかっています。健闘を祈ります。

ご指導いただきました先生方、同じ時間を過ごしてくださった学友の皆さんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生父母からの言葉

すべてに感謝

電気電子工学科卒業生 外崎涼介
《母》外崎和歌子

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。
今日まで共に学んできた仲間と、この春からは別々の道を歩いていくことになりますね。

入学から今日に至るまでの日々、学生の皆さんもご家族の皆さんも、様々な思いが今よみがえっていることでしょう。

地域柄、生まれてから保育所、小・中学校と十五年間ずっと同じ顔ぶれで、クラス替えもなくひとクラスで過ごしてきたことに対して、今後の息子の社会性への危惧がありました。一度この状況から脱却させ、ましてや親元からも離してみて、様々な経験を積んで成長して欲しい、という親の思いと、本人のエンジニアへの志しが合致し、苫小牧高専への進学にいたりました。

寮に入って一年目のGW帰省中、中学の頃からのまだ反抗期だったはずの息子から、『親のありがたみが分かるって、わかるわ』との言葉に、ひと月足らずで早くも、ここまで成長してくれたのかと驚きました。

あれからもう五年。

難しい専門知識の習得に、時にくじけそうになった事もあったはずです。そんな中、頑張ってこられたのも、親よりも長く寝食を共にしてきた寮の友人たちや、クラスの仲間が支え励まし合ってくれたからだと聞き及んでいます。

学業のみならず、人として大切なこと、一生の友と出会えたこと、高専生活で養われた、経験値すべては、自分の血となり肉となっています。

これからの自分を形成していく上で、何ひとつ無駄なことなどはなかったはずです。それらを糧に、社会に出てからも自信を持って、そして責任も持って歩んで行ってください。

人生の財産になった高専生活を胸に、これから出会うすべての人に、出来事に、感謝できる人間になっていってください。

この五年間、たくさんの知識と道筋をつけてくださった先生や寮務の方々、学校職員の皆さんに感謝とお礼を申し上げます。

退職教員からのご挨拶

退職にあたって

創造工学科
総合自然科学系
教　授
上木政美

昭和60年より34年間お世話になりました。その間、楽しく過ごさせていただけたのは教職員の皆様に恵まれたこと、そしてなんと言っても学生諸君に恵まれたことです。大変、感謝しております。初めて苫小牧市を訪れ、苫小牧駅からタクシーで移動の途中、3月ですでに雪が全く無いことに驚かされたことを鮮明に覚えています。当時は周りに建物もほとんど無く原野の中に高専だけといった状況でのんびりとした昭和の風情がまだありました。その後時代は平成に移りコンピュータの発展とともに、世の中の回転速度が急速に速くなったことを実感しています。

終業式の挨拶でも話しましたが、皆さんは物心ついた頃にすでにこの流れの中にいるので気づかないかもしれませんが、個人レベルで言うとこの流れについて行くことは難しいと感じます。時には周りに流されたり自分を見失ったりしたとしても特別なことではありません。そんな時こそ一度立ち止まって自分と向き合う時間をぜひ作ってください。そして、本当にやりたいことを見つけたら努力あるのみです。

皆さんには若さがあります。可能性は無限大です。陰ながら、皆さんの活躍を心よりお祈りしています。長きに渡り本当に有り難うございました。

退職にあたって

創造工学科
総合自然科学系
特任教授
山口和美

昭和45年に苫小牧高専工業化学科に入学し、平成2年からは今度は教える立場で本校に着任しました。合計34年間本校に在籍したことになります。

自分の人格は、蒼冥寮で過ごした5年間に出会った個性豊かな多くの友人や、専門知識ばかりでなく人間としての在り方を折に触れて教えて下さった先生達のお蔭で出来上がりました。振り返って、自分がどれだけ学生を育てることができたかを考えると忸怩たる思いがありますが、多くの教職員の皆様と優秀な学生諸君のお蔭で、大過なく過ごすことができたことを心から感謝申し上げます。

心身ともに成長期にある学生達が、勉強やクラブ活動で自ら日々様々なことを吸収して変わって行く姿を目の当たりにできたことは幸せでした。また、卒業あるいは中退した学生が元気な顔を見せて、自分や友人について近況報告してくれる姿は、大きな励みになりました。

本校の更なる発展と皆様のご健勝を祈念して退職のご挨拶とさせていただきます。

退職にあたって

創造工学科
都市・環境系
特任教授
浦島三朗

昭和51年4月に苫小牧高専土木工学科「文部教官助手」として採用され、平成29年3月に定年を迎え再雇用で2年間お世話になりましたが、平成31年3月末で43年間の教員生活を終えることとなりました。

この間、高専の独立行政法人化により教官から教員に、改組により土木工学科から環境都市工学科、創造工学科に、職種も助手から講師、助教授、教授、再雇用後は特任教授と目まぐるしく職名が変わりました。また、週5日制や専攻科設置など大きく変わった時期でもありました。変わるたびに色々なことがありましたが、周りの多くの人に支えられながら、講義、実験・実習、設計製図のみならず、課外活動を含めいろいろな仕事をさせて頂きました。学生に対しては、常に真剣に接した毎日でしたが、人に教えることの難しさを常に感じていました。

最後に長い間お世話になり支えて下さった教職員の皆様、共に学びあってきた卒業生を含む学生の皆さんに心からお礼申し上げます。

苫小牧高専サテライト「C-base」の紹介

地域共同研究センター長　須田孝徳

2019年度より、地域共同研究センター長を拝命しました須田です。新米ですので最初はタドタドしい動きとなるかと思いますが、どうかご容赦いただけますようよろしくお願いします。

今年度におきましても、本校の従来からの活動である出前授業、公開講座、実験教室「科学のとびら」、COC+(オール北海道雇用創出若者定着プロジェクト)関連事業につきましてはこれまで同様に継続して行っていきます。これらに加えまして、昨年の10月にオープンした苫小牧高専サテライト「C-base(呼び方はシーベース)」を積極的に運用していきます。

「C-base」は地域と本校の架け橋になることを目的に、高専機構の公募事業であるKOSEN4.0事業に応募・採択をきっかけとして設置しました。「C-base」の設置にあたっては、苫小牧市および苫小牧商工会議所と相談しながら進め、結果としてそれぞれの機関と連携協定を締結するに至っております。昨年の設置からこれまでの運営にあたり、両機関をはじめ、地域の様々な皆様に多大なご協力をいただいております。

「C-base」が果たすべき役割は、「C」に込められております。具体的には3つの英単語のイニシャルからとりましたのでその由来を以下に示します。

1. Collaboration：支援機関は「協働」しチームになって活動します

○企業同士や高専・大学等との共同研究および共同事業を「協働」して促進します

※ここで協働は「同じ目的のために、力をあわせて働くこと」とします。つまり、気持ちや想いを入れて働く、というように捉え、有機的な活動とします

2. Catalyst：「触媒」として機能します

○協働した支援機関のチームは企業等の事業を応援し、その成長速度を促進します

3. Come：新しい事業をやりたい人たちが来ていただける「たまり場」を目指します

○これから起業したい人や様々な課題がある人などが来ていただけるようにします

○支援機関は苫小牧近郊だけではなくいろんな機関に来ていただけるようにします

そして「C-base」は、上記の3つの「C」を実行するために、base「基地」として機能させていきます。

この「C-base」を、地域の様々な課題解決や、地域の機関と本校との共同研究や共同教育の拠点になることを目指して運営していきたいと考えております。しかしながら、地域の皆様のために効果を引き出すためには、学外、学内の多くの皆様のご理解とご協力が必要となります。

皆様におかれましては、ぜひ「協働」していただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

地域共同研究センターの活動

〈出前授業〉

地域貢献の一環として、苫小牧市近郊の小・中学校や各種団体等に対し、地域の生涯学習環境の充実に貢献することを目的として出前授業を実施しています。ドライアイスの実験やバーチャルリアリティの体験等様々な授業を展開しています。

〈公開講座〉

主に小中学生を対象に、講座を通して「ものづくり」の楽しさを知ってもらうのがねらいです。実際にパソコンを使ってプログラミングしてみたり、実験装置を使って化学実験をしたりなど、高専での授業が体験出来る講座です。理科をはじめとした学問への興味や科学技術に関心を持ってもらおうと、趣向を凝らした様々な講座が展開されています。

苫小牧高専サテライト「C-base」開設

2018年10月12日に苫小牧高専サテライト「C-base」を開設し、技術経営相談窓口の運用を始めました。このC-baseで地元企業等が抱える課題を発掘し、学生の皆さんの力を借りて課題解決を目指します。

〈科学のとびら―苫小牧高専実験教室―〉

イオンモール苫小牧にて行われる大好評のイベントです。テーマごとにブースを設け、スライムを作ってみたり、レーザー加工機を使ってネームプレートを作ってみたりなど、様々な実験を実際に体験できる小・中学生向けの科学教室です。

他にもたくさんのイベントを開催しています！

タイ・カセサート大学
インターンシップ座談会

2019年2月23日㈯～3月19日㈫の計25日間（本科5年は12日㈫の計18日間）、学術交流協定校であるタイ・カセサート大学学生インターンシップ派遣が行われました。その参加者4名で座談会を行いました。

電子・生産システム工学専攻1年
沖　駿吾

環境システム工学専攻1年
斎藤大志

電子・生産システム工学専攻2年
石山柊斗

電子・生産システム工学専攻2年
金澤豊世

聞き手
有馬隆司
准教授

――今回、インターンシップに参加しようと思ったのはなぜ？

金澤：今まで、ニュージーランドＥＩＴ・香港ＴＨＥ-i研修という「英語を使う」ことに重点をおいた研修に参加したのですが、今回のインターンシップは、使うことを前提として、自分の専門分野を英語で話す機会を持てることから、自分のスキルアップにつながると思い応募しました。

石山：香港ＴＨＥ-i研修にも参加してみて、単純にタイも行ってみたいと思いました。研究もするということに多少不安もあったけど、チャレンジしてみたいと思って応募しました。

沖：研究ができるというのが一番の決め手で。

研究がどんな感じなのか、タイの電力事情とかを知って自分の研究に活かしてみたいと思いました。

斎藤：安く長い期間行けるっていうので興味を持って。ただの勉強だけではなく、研究ができるのも魅力でした。

――インターンシップを振り返って特に印象に残っていることは？

金澤：暑かったことです。北海道は冬、タイはこれから夏になるという時期で温度差が40℃近くあって、タイの生活は刺激的でした。

石山：楽しかった。観光地も多くて、カセサート大学の学生がいろいろ連れて行ってくれた。

金澤：研究だけではなく、ほぼ毎日どこかしらに行って、学生と交流してた。

沖：一番印象に残っているのは、豆乳を飲み過ぎてお腹を壊したこと。豆乳って摂取量がある一定量を超えるとお腹を壊すのを知らなくて、おいしいってたくさん飲んでしまって、４日間くらい寝込んでしまいました。

斎藤：軽い熱中症になって。お腹も壊して病院にも行った。カセサート大学の学生がついて行ってくれて。

――気温差は慣れた？

金澤：首都で冷房も付いているところが多かった。外も暑いのはわかっているから、多少慣れてきた。

石山：でもじめじめはしていなかったから。嫌というわけでもなかった。

――食事は？

金澤：安かった。独特の香辛料（レモングラス）とかを多く入れられるときつかった。一番おいしかったのはカオマンガイ。パッタイも。

斎藤：辛かった。タイ風お好み焼きみたいなのもおいしかった。

――研究面で印象に残ったのは？

金澤：ＰＣを持っていることが大前提。シミュレーションの研究室だったが、自分のＰＣと学校の環境をネットワークで繋いで操作したり研究していた。基本、自分のＰＣで実験から報告まで行っていたことが印象に残っている。日本だったら、学校が用意することが多いけど、タイは自分で用意する。

石山：事前調査でＰＣのシミュレーションソフトＭＡＴＬＡＢを使っているとあったけど、大学に行ったら自分の持ってきたＰＣにＭＡＴＬＡＢが入っているかと言われて。僕たちは学校にあるＰＣにＭＡＴＬＡＢが入っているのを使っているので。まず、ＭＡＴＬＡＢを自分のＰＣにインストールすることからスタートした。

斎藤：苫小牧高専よりもつくったものを製品化するというのが結構具体的なところまで進んでいた。

金澤：企業との共同研究が多かった。大学の規模を利用して、企業と一緒にやっていた印象。産業的なものが多かった。結果がすぐ社会に貢献するような研究が比較的多かったかな。

――事前にどんな準備をしましたか？

石山：どんな研究室に入るなどの事前情報があまりなかったので普段通り。

金澤：もともと進学用にＴＯＥＩＣの勉強はしていたけど。ボキャブラリーがあった方がいい。わからない単語を自分の知っている単語に言い換えるのが難しかった。

石山：言っていることはわかっていても単語が出てこないとかがあった。

――やっておけばよかった準備は何？

金澤：発音練習。学校ではリスニング・リーディングをやっていたけど。

沖：何の研究をするのかが事前に分かっていたら、その準備が出来たな、と。実際カセサート大学に行って驚いたこともあって。

金澤：前もってコミュニケーションが取れていればだいぶ変わっていたかな。

石山：どんなタイ語知ってる？とよく聞かれた。

金澤：タイ語をまったく知らなかったのが申し訳なかった。ちょっと覚えていたらコミュニケーションのスタートが円滑に進んだかな。

斎藤：学校内だと英語が通じるけど、タクシーやバスを利用する際は英語が通じなかった。

――今だから話せる失敗談などはありますか？

斎藤：観光地でタクシーにぼったくられたことかな。

金澤：断る言葉を知らなかったのもあって。そういうのをうまく出来たらっていう後悔があったかな。相場を知ってたら。

沖：虫刺され対策をしていなかったことかな。刺された箇所が日本に帰ってからも数週間腫れていて。

金澤：お酒を飲みに行く機会が何度かあって。タイ料理もおいしくて、暑いのもあって喉も渇いて飲んでいたら、身動きがとれなくなって寮まで担いでもらったことかな。

――インターンシップに参加して得たものは何ですか？

金澤：英語のコミュニケーション能力が向上した。ＬＩＮＥのやり取りを苦もなくできるようになった。お互いの出来事をＬＩＮＥしあう仲間ができた。今までは翻訳を使って文を訳すレベルだったけど、見ないでも打てるようになったり、電話で会話できるようになった。

石山：今回仲良くしてもらった学生の中に北海道に遊びにくる学生がいて、案内してあげることになった。

沖：ニューラルネットワークの研究をさせてもらって、ＡＩが使えることを実感した。

金澤：今回の研究テーマが、生態系と電気を組み合わせたようなもので、そういう研究にふれ合って興味を持ったので、進学先を変更することにした。

――インターンシップを考えている後輩へのアドバイスは？

金澤：英語をとにかく使うこと。日本人同士でも英語で話したり、ＳＮＳに英語でアップしたり、オンライン英会話とかで話してみる。自分の発音の悪さに気づかされるから。あと、自分の研究をちゃんと理解しておくことかな。自分の研究について話していて、予想外の方向から意見があった場合に会話に詰まったりしたので。

有馬先生から一言

短い期間だったけど、研究面でも英語のコミュニケーション面でも非常に充実していたようで、英語の壁を恐れず学生と仲良くなって楽しんでいたのが見ていてうらやましいな、と。今回、文化の違いであったり、英語のコミュニケーションであったり、研究の基礎の重要性を再認識したりと身を持って体験したと思うので、この経験を活かして欲しいな。後輩たちにも経験をぜひ伝えて、ひっぱりあげて欲しいです。

平成30年度本科卒業生及び専攻科修了者の進路状況について

平成30年度卒業者進路状況

学科		機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	合計
求人会社数		695	739	549	418	483	2,884
卒業者数	男	35	37	24	31	40	167
	女	5	2	11	10	3	31
進学者数	男	11	16	9	10	19	65
	女	0	0	1	3	2	6
企業等	男	25	21	14	21	19	100
	女	4	2	10	6	1	23
公務員	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
進学先		室蘭工業大学 秋田大学 東京大学 長岡技術科学大学(3) 苫小牧高専専攻科(5)	室蘭工業大学(2) 岩手大学 千葉大学 東京農工大学 長岡技術科学大学(4) 豊橋技術科学大学(2) 苫小牧高専専攻科(5)	室蘭工業大学 北見工業大学(2) 長岡技術科学大学(2) 豊橋技術科学大学 苫小牧高専専攻科(3) 札幌市立大学	北海道大学(2) 帯広畜産大学 新潟大学 苫小牧高専専攻科(9)	北海道大学(2) 室蘭工業大学(5) 北見工業大学 弘前大学 金沢大学 千葉大学 香川大学 長岡技術科学大学(3) 豊橋技術科学大学(2) 苫小牧高専専攻科(4)	
就職先		ANAエンジンテクニクス㈱ ANAベースメンテナンステクニクス㈱ ANAラインメンテナンステクニクス㈱(2) SUBARUテクノ㈱ オリンパス㈱ カルビー㈱　北海道工場 キリンビバレッジ㈱ サントリービール㈱ サントリープロダクツ㈱ ソニーストレージメディアマニュファクチュアリング㈱ パーソルR&D㈱ パナソニック㈱ オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社 ファナック㈱ 旭化成㈱ ㈱荏原製作所 ㈱日立パワーソリューションズ 成田空港給油施設㈱ 大阪ガス㈱ 電源開発㈱ ㈱国立印刷局 日軽北海道㈱ 日鉄住金テックスエンジ㈱ 日本貨物鉄道㈱ 関西支社 日本貨物鉄道㈱ 北海道支社 日本空港テクノ㈱ 日本原燃㈱ ㈱日立ハイテクフィールディング 北海道エア・ウォーター㈱	ＪＸエンジニアリング㈱ ＫＤＤＩエンジニアリング㈱ 出光興産㈱ キヤノン㈱ コニカミノルタジャパン㈱ ダイキン工業㈱ 中部電力㈱ 日本電気計器検定所北海道支社 富士通㈱ フジテック㈱ 北海電気工事㈱ 丸茂電機㈱ 三菱電機ビルテクノサービス㈱ ユニチカ㈱ ㈱ＮＨＫメディアテクノロジー ㈱ＮＴＴファシリティーズ北海道 ㈱タマディック ㈱つうけん ㈱ドコモＣＳ北海道 ㈱日立ハイテクフィールディング ㈱日立パワーソリューションズ ㈱安川電機 北海道電力㈱	NTTコムソリューションズ㈱ NTT東日本グループ アドバンスドプランニング㈱ ウェルネット㈱(2) エヌアイシーネットシステム㈱ キヤノンシステムアンドサポート㈱(2) キヤノン㈱ クオリサイトテクノロジーズ㈱ ソニーエンジニアリング㈱ ㈱CIJ ㈱DNPデジタルソリューションズ ㈱JALエンジニアリング ㈱NTTデータMSE ㈱NTTデータフロンティア ㈱ジェイマックスシステム ㈱セゾン情報システムズ ㈱テクノラボ ㈱ハイマックス 東海旅客鉄道㈱ 日鉄住金テックスエンジ㈱ 日本空港テクノ㈱ 富士通㈱	DIC北日本ポリマ㈱ JSR㈱ キリンビバレッジ㈱ サントリーホールディングス㈱ ニプロ㈱ メビウスパッケージング㈱ ライオン㈱ 一般財団法人材料科学技術振興財団 一般社団法人日本血液製剤機構 王子製紙㈱ 花王㈱(2) ㈱三井化学分析センター ㈱大塚製薬工場 三井化学㈱ 三洋化成㈱ 柴田科学㈱ 出光興産㈱(2) 大日精化工業㈱ 第一工業製薬㈱ 第一三共ケミカルファーマ㈱ 東レ㈱ 東邦化学㈱ 東洋インキSCホールディングス㈱ 日東電工㈱ 日本触媒㈱	伊藤組土建㈱ エヌ・ティ・ティ・インフラネット㈱(2) 五洋建設㈱(2) 昭和シェル石油㈱ 大日本土木㈱ 東急建設㈱ 戸田建設㈱(2) 内外エンジニアリング北海道㈱ 日特建設㈱ 東日本高速道路㈱ 東日本旅客鉄道㈱ ㈱シビテック ㈱錢高組 ㈱ネクスコ・エンジニアリング北海道 ㈱北海道水工コンサルタンツ ㈱横河システム建築 東海旅客鉄道㈱	

平成30年度修了者進路状況

専攻		電子生産システム工学専攻	環境システム工学専攻	合計
求人会社数		573	395	968
修了者数	男	16	3	19
	女	0	5	5
進学者数	男	4	1	5
	女	0	1	1
企業等	男	12	2	14
	女	2	4	6
公務員	男	0	0	0
	女	0	0	0
進学先		北海道大学大学院(2) 長岡技術科学大学大学院(2)	北海道大学大学院 山梨大学大学院	
就職先		キヤノンシステムアンドサポート㈱ グリー㈱ コマツ 建機マーケティング本部 ソニーエンジニアリング㈱ パナソニック㈱　ＡＩＳ社 フジテック㈱ ヤフー㈱ ㈱グロービス ㈱ダイナックス ㈱牧野フライス製作所 三菱電機プラントエンジニアリング㈱ 富士電機㈱	旭化成㈱ 出光興産㈱ 王子製紙㈱ 花王㈱ 東海物産㈱ 北海道住電精密㈱	

平成30年度の進路状況の特徴としては、本科生対象の求人会社数が7年連続で順調に増加（平成30年度は2,884社、平成29年度は2,668社、平成28年度は2,418社、平成27年度は2,256社、平成26年度は2,069社）し、また専攻科生の求人会社数も例年に増して高水準を維持（平成30年度は968社,平成29年度は940社）していることにあります。これは本校の卒業生の活躍が企業や大学に高く評価された結果と考えております。また、本科生198名（内31名が女子）の卒業者の進路は、30名が道内就職、93名が道外就職、75名が進学する結果となり、道内就職率の低下が見られる結果となりました。

本校の学生は、これからの困難な時代を地域社会や企業のなかでリーダーとして生きていかなければなりません。そのためにも、仕事に対する自己イメージを持たせるような教育は重要であり、いくつになっても常に自分自身のキャリア・デザインができるような素地をこの高専の在学中に作ることが必要と考えております。このようなことを踏まえ、本校では、キャリア講話や創造工学の授業を通して、コミュニケーション力、協調性、多様な価値観への理解、将来の先見性、自分自身の理解など、社会で必要な力を持ってもらえるように、「組織的」「系統的」なキャリア教育の一層の推進に取り組んでまいります。

最後に卒業してOBになった皆様にもお気軽にお越しいただける場所を目指しています。皆様のご来校を心よりお待ち申し上げます。

キャリア教育センター長　**山下　徹**

教育理念・学習目標等（平成25年4月改定）

教育理念

豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、
技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、
社会の発展のために活躍できる人材を育てる。

本科学生の学習目標

Ⅰ 人間性：正課、行事、課外活動等を通して、豊かな人間性と教養および自主自律の精神を身につける。
Ⅱ 実践性：創造力の基礎として、実践力および将来に向けて自らを向上させる学習習慣を身につける。
Ⅲ 国際性：世界に目を向ける姿勢と教養およびコミュニケーションの基礎能力を身につける。

専攻科学生の学習目標

Ⅰ 人間性：正課、校外活動等を通して、豊かな人間性と教養および広い視野を身につける。
Ⅱ 創造性：複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力を身につける。
Ⅲ 国際性：グローバルに活躍するための教養とコミュニケーション能力および相互理解の精神を身につける。
※専攻科で育成しようとする技術者像は、「教育理念」および「専攻科学生の学習目標」

「“環境・生産システム工学”教育プログラム」の学習・教育到達目標（対象：本科第4学年～専攻科）

(A) 教　　養：地球的視点で自然や環境を考え、歴史、文化、社会などについて広い視野を身につける。
(B) 倫 理 と 責 任：技術者としての倫理観や責任感を身につける。
(C) コミュニケーション：日本語で記述、発表、討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける。
(D) 工 学 基 礎：数学、自然科学、情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける。
(E) 継 続 的 学 習：技術者としての自覚を持ち、自主的、継続的に学習できる能力を身につける。
(F) 専 門 の 実 践 技 術：ものづくりに関係する工学分野のうち、得意とする専門領域を持ち、その技術を実践できる能力を身につける。
(G) 複合領域の実践技術：他の専門領域も理解し、自身の専門領域と複合して考察し、境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける。
(H) 社会と時代が求める技術：社会や時代が要求する技術を認識し、それらを応用してシステム化や製品化するデザイン能力、開発能力、とりまとめ能力を身につける。
(I) チ ー ム ワ ー ク：自身の専門領域の技術者とは勿論のこと、他領域の技術者ともチームを組み、計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける。

英語コミュニケーション能力の学年目標

第1学年：英検準2級	第2学年：英検準2級～2級	第3学年：英検2級	第4学年：TOEICスコア450	第5学年：TOEICスコア500
専攻科第1学年：TOEICスコア550	専攻科第2学年：TOEICスコア600（大手企業が大学卒業者に求めるTOEICスコアは、およそ600以上）			

研究の目的・社会貢献の目的

学術の進展に教育内容を即応させるため、必要な研究を行う。また、研究活動や地域への教育活動等を通して、地域・社会の発展に寄与する。

人 事 異 動

○平成31年3月15日付
事務職員・技術職員
【雇用期間の満了】
技術補佐員（菊田教授研究室）　野中響己

○平成31年3月29日付
事務職員・技術職員
【雇用期間の満了】
技術補佐員（村本充教授研究室）　勝目教恵

○平成31年3月31日付
教育職員
【定年退職】
創造工学科教授（総合自然科学系担当）　上木政美
創造工学科教授（総合人文科学系担当）　沖本正憲
創造工学科教授（情報科学・工学系担当）　吉村　斎
創造工学科准教授（機械系担当）　野口　勉
【辞職】
創造工学科准教授（都市・環境系担当）　所　哲也
【雇用期間の満了】
創造工学科特任教授（都市・環境系担当）　浦島三朗
創造工学科特任教授（総合自然科学系担当）　山口和美

事務職員・技術職員
【定年退職】
技術教育支援センター技術長　照井文哉
【辞職】
総務課長　井上義彦（北見工業大学総務課長）
総務課企画調査係長　富塚直樹（北海道大学総務企画部広報課係長（広報・渉外担当））
技術教育支援センター　菅原啓太
【雇用期間の満了】
技術教育支援センター技術補佐員　佐藤厚子
学生課教務係事務補佐員　三好なつみ
学生課学生係事務補佐員　渡辺郁子
学生課寮務係事務補佐員（寮母）　坂本裕美
事務補佐員（菊田教授研究室）　高橋　薫

○平成31年4月1日付
教育職員
【採用】
創造工学科教授（機械系担当）　須田孝徳
【昇任】
創造工学科教授（機械系担当）　二橋創平
創造工学科教授（応用化学・生物系担当）　甲野裕之
【再雇用】
創造工学科特任教授（情報科学・工学系担当）　吉村　斎
創造工学科特任准教授（機械系担当）　野口　勉
創造工学科嘱託教授（総合人文科学系担当）　沖本正憲

事務職員・技術職員
【採用】
総務課長　松橋和哉（北海道大学研究推進部産学連携課課長補佐）
学生課教務係　今井萌々香（新規採用）
学生課教務係事務補佐員　山口麻美（新規採用）
学生課学生係事務補佐員　西入千登勢（新規採用）
学生課学生係事務補佐員　清野沙奈恵（新規採用）
学生課寮務係事務補佐員（寮母）　宮澤享子（新規採用）
【昇任】
技術教育支援センター技術長　高橋正一（技術教育支援センター専門員）
技術教育支援センター専門員　川上光博（技術教育支援センター専門職員）
学生課学生係主任　三國谷理恵（学生課学生係）
【再雇用】
技術教育支援センター嘱託職員　照井文哉
【配置換】
函館工業高等専門学校事務部長　三浦哲也（学生課長）
学生課　相内征也（旭川工業高等専門学校総務課長）
学生課専門職員（キャリア支援・留学生担当）　小川靖之（学生課専門職員（入試担当））
【併任】
総務課企画調査係長　佐藤忠淳（総務課課長補佐（総務担当））
【復帰】
総務課調達係主任　吉田洋介（室蘭工業大学調達課調達係主任）
【出向】
帯広畜産大学入試・教務課学務企画係主任　関谷俊一（学生課学生係主任）
室蘭工業大学調達課調達係主任　齊藤里奈（総務課調達係主任）

○平成31年4月15日付
事務職員・技術職員
【採用】
技術補佐員（菊田教授研究室）　高橋　薫

○平成31年4月22日付
事務職員・技術職員
【採用】
技術補佐員（村本教授研究室）　清野沙奈恵

○令和元年5月7日付
事務職員・技術職員
【採用】
技術補佐員（高橋准教授研究室）　山口麻美

高専通信

vol. 151 contents

1 新入生へ贈る言葉

2 在校生からのメッセージ
第1学年担任からのメッセージ

3 各副校長ご挨拶

4 新留学生紹介
学生会の紹介

5 学生課よりお知らせ
行事予定

6 卒業生へ贈る言葉

7 卒業生・修了生からの言葉

8 卒業生父母からの言葉
卒業式写真

9 退職教員からのご挨拶

10 苫小牧高専「C-base」の紹介

11 タイ・カセサート大学
12 インターンシップ座談会

13 平成30年度本科卒業生及び専攻科修了者の進路状況について

14 教育理念・学習目標等
人事異動

編集後記

平成31年度最初の高専通信では、昨年度末から新年度にかけての本校の動きをお届けします。

3月15日には198名の本科生と24名の専攻科生が巣立って行きました。

そして4月3日には199名の新1年生、3名の留学生、26名の専攻科生を新たに迎え校内に活気が漲っています。

今年の苫小牧の春は例年より早く樽前山の雪が解け、ゴールデンウィーク後にはクラブ活動で日焼けした学生が多く見られました。

本年度も高専通信により学校の様子を年3回に分けて皆様にお伝えします。

最新のニュースは本校のホームページに掲載しております。また、本校のFacebookでもカジュアルな情報も配信しております。

そちらもご覧になって頂ければ幸いです。

総務主事　古崎　毅

［高専通信に関するお問い合わせ先］
苫小牧工業高等専門学校　総務課総務係〒059-1275　苫小牧市字錦岡443
TEL.0144-67-0213　［MAIL］pub_info@tomakomai-ct.ac.jp